

入選

見えないところでも

東京都 学習院女子中等科 2年 金子 瑛美

私の家の近所には商店街がある。もともと最寄り駅自体が、急行列車も止まらないような小さな駅だからか、正直いって盛況とは言いがたいひっそりした商店街だ。そうはいっても、靴屋、酒屋、焼き鳥屋、豆腐店、美容院、歯医者、クリーニング店……等、頭の中で商店街を歩きながらお店を列挙してみると、意外といろいろなお店が顔を並べている。人通りもそう多くないにもかかわらず、営業を続けている数々のお店は、地元の人たちに大切に利用されているからこそやっていけているのだろう。

ある日、私は学校に用事があり、朝早くに駅に向かっていった。すると、作業服を着た男性がほうきとちりとりで、道を掃除しているのが目に入った。商店街にある工務店の、よく見かけるおじさんだった。そのときは、ただぼんやりと、(開店前に自分の店の前をきれいにしているのかな。)としか思わなかった。それほど気にもとめなかったのも、私はそのことはすぐに忘れてしまっていた。

それから、ずいぶんと日が経ったある日、私はまた用事で朝早く人気のない道を駅へと急いでいった。すると、再びあのおじさんを見かけた。今度は工務店の前ではなく、少し離れた場所で掃除をしていた。それから、私が朝早くその道を通ると、そのおじさんはいつもどこかを掃除していた。あるときは工務店より駅に近い商店街の道を、またあるときは工務店よりだいぶ駅から離れたあたりを。

ひょっとして、相当広い範囲を毎日掃除しているのかもしれない。そう思った私は、ある日母にたずねてみた。

「朝早く商店街を通ると、工務店のおじさんが掃除しているのをよく見るんだけど、見たことある？」すると母は、

「そうなのよ。いつも朝早い時間に通ると必ず掃除しているのを見かけるわ。この前、台風の翌日なんて、商店街だけじゃなくて住宅街の方までお掃除していたわよ。ありがたいわね。」

それを聞き、私はとても驚いた。毎朝商店街を、ときには周辺の住宅街まで掃除しているなんて。いや、もしかしたらいつもやっているのかもしれない。母いわく、6時半前くらいだと見かけるようだが、7時くらいだと見かけないようだ。人通りが増えてくる前には終わらせているのだろう。こうして商店街を通る人々のため、お店を構えている人たちが気持ちよく過ごせるように、人知れず努力している人がいるのだ。このようなひっそりとした商店街だが、ふと思い返してみると、ごみが散らばっていたことなど見たことがなかった。それは、いつもそうやって掃除してくれる人がいたからだだったのだ。

私が気づいたのは掃除のことだけだが、ほかにも、私や道行く人々が気づかないところで違う形で努力してくれている人たちがいるのかもしれない。

「毎日人知れず誰かの役に立つ。」

言うは易しだが簡単にできることではない。せめて、このできごとを忘れることなく過ごしていきたい。いつかあのおじさんのようになれるように。